

令和4年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493700270	事業の開始年月日	平成25年6月1日
		指定年月日	平成25年6月1日
法人名	社会福祉法人藤雪会		
事業所名	市が尾ポポロ		
所在地	(〒225-0014) 横浜市 青葉区 荏田西6-1-19		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	2023 2/15	評価結果 市町村受理日	令和5年5月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的でアットホームな雰囲気大切に、地域との繋がりを大切に笑顔多く過ごしていただく。
--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和5年3月2日	評価機関 評価決定日	令和5年5月12日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> 事業所は、東急田園都市線市が尾駅から徒歩10分ほどの閑静な住宅街にある。木造2階建ての2階部分が認知症対応型通所介護を併設する1ユニットの当グループホームで、1階には別法人運営の保育園がある。認知症対応型通所介護グループホームへの入居を希望する方も利用している。</p> <p><b>【馴染みの人や場との関係継続】</b> コロナ禍ではあるが、対面での面会対応を早々に再開し、利用者は、居室で好物を食べるなど、家族と一緒に楽しいひと時を過ごしている。事業所は、書道を嗜む利用者が、週1回、書道を楽しむ時間や、幼稚園の先生をしていた利用者が、職員に教えるほどの腕前である電子ピアノを弾く時間を作るなどして趣味の継続を支援している。利用者一人ひとりに寄り添い、その方が嬉しく思うこと、継続して楽しめること、できることをうまく引き出す支援を実現している。</p> <p><b>【コロナ禍にあっても変化が乏しくならない工夫】</b> コロナ禍で外出に制約がある分、日々の生活の中で、端午の節句、七夕、スイカ割り、ミニクリスマス会、お正月おせち、節分など、季節を感じる行事イベントを数多く企画・実施して、利用者が楽しめる機会を作っている。イベントで一緒に作った作品は壁に飾ることでその余韻が残る工夫もしている。月に一度の誕生会・お楽しみ会は利用者の希望を受けて刺身や寿司、誕生日ケーキを提供し、皆で楽しく食べる工夫をしている。調理専門職員が休みの際には、外食産業のお店のお弁当を提供する等、変化に富む食事を提供している。ADL低下防止のため、毎朝、食後のラジオ体操をはじめ、1日の中で何度も身体を動かす機会を作り、声掛けして実践している。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

業所名	市が尾ポポロ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆さんが家のように過ごして頂くため、ご自身で出来ることはなるべくやっていただき、家庭的な生活を送れるよう支援している。	職員の皆で考えた大理念と、より具体化した3つの理念は玄関に掲示し、会議レジメの先頭にも大理念を明記し、共有している。利用者には日常的に1階の保育園児の声が耳に届き、まさに安心できる家にいるような雰囲気の中で掃除や洗濯物干しや畳み等が行えるよう支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、回覧板にて地域の催し物は把握しているがコロナウィルス流行の為、交流は遠慮して頂いている。交流の機会が少ない為、少しの交流でも大事にしている。(往診やお客さん等)	荏田西3丁目町内会に加入し、回覧板から情報を得て年3~4回、近隣の公園清掃に利用者と一緒に参加している。行事等への参加はないが、散歩の際に近所の方と挨拶している。事業所が借りている畑は近所のボランティアが管理し、収穫物を持って来てくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎週日曜日に地域の公園の自主清掃、毎月第三日曜日の町内会の定例清掃は自粛している状況。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為、運営推進会議は開催出来ていない状況。	1か月おきに書面開催をして報告書を作成し、町内会長や地域包括支援センターを始めとするメンバー全員に郵送している。その際に意見も求める書面と返信用封筒も同封している。意見や感想は、メンバーにフィードバックしている。クラスターが年度末にあたり、シフト調整が困難だったこと等を出席者が受け止めてくれ、ねぎらいの言葉をもらった。	さらによりよい事業所運営に繋がるよう、報告書送付は会議の全メンバーだけでなく、前回目標達成計画にも具体的対策として掲げられたとおり、利用者の全家族にも送付して意見等を求めることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症カフェの開設は行っているが、コロナの為自粛している状況	青葉区高齢・障害支援課宛に電話で不明点の確認や相談をする他、要介護認定申請等の際には、窓口に出向いている。運営推進会議報告書は郵送している。昨年2月のクラスター発生時には、横浜市からフェイスシールド、N95マスク、ガウン、手袋の支給を受けた。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の実績は無いが、オンラインにて身体拘束の研修を実施。 帰宅願望が出た際は外に一緒に行くなど対応。	指針はHPで公開している。半年ごとに管理者、ケアマネ、常勤介護職の3名で身体拘束適正化検討委員会を開催している。全職員が年2回オンラインで研修受講する他、気になることはスタッフルームでマニュアルを常時閲覧できる。1階に一人で降りてしまう利用者があるが、降りた事で満足されるので、職員は見守り、タイミングをみて声をかけている。日頃のケアで気になる言動や発言があれば、管理者がその職員に声をかけフォローしている。	身体拘束適正化委員会は3か月に一度の開催が求められていますので、このサイクルでの開催に向けて、早急な改善を期待します。
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	更衣介助や入浴介助、身体介助を行うときやコミュニケーションをとっているときにボディチェックを行い、いつもと違うことなどあれば報告することを徹底している	年2回全職員が研修受講する他、スタッフルームに常時閲覧可能な「虐待防止学習テキスト」をマニュアルとして置いている。職員は、虐待でない些細なことでも利用者にいつもと違う様子があると写真を含む記録に残し、管理者に報告をしている。管理者は都度内容を確認し、職員にヒアリング等を行って、きめ細かく利用者の状況を確認している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人にていつでも視聴できるオンライン研修を実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書の説明を理解して頂くため丁寧に対応し「何かご不明な点があればいつでも聞いて下さい」と一言伝える		

10	7	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映          利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会に入って頂きご意見、要望などできるだけ伺い、何かあればすぐに意見を反映する。また言いにくい意見があれば、記入して入れられるご意見箱も設置している。ご家族の意向でlineにてオンラインの面会も実施している。</p>	<p>玄関に意見箱を設置してあるが、意見は入っていない。家族会開催は見合わせているが、居室での面会を受け入れており、来訪家族には管理者が状況等を直接説明する。問い合わせ等の電話やメールでも、近況報告し、家族の思いや要望を確認するよう努めている。家族には、毎月、請求書送付に合わせて利用者の写真と管理者コメント入りの手紙を郵送して様子を知らせている。郵送の代わりにメール送信を希望された家族に対応した。Zoomでのオンライン面会の他、家族の希望に沿ってLINEでの面会にも対応した。</p>	
----	---	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や常日頃、何かあればいつでも何でも、伝えただくようにしている。年2回程、理事長もこられ話す機会を設けている。	隔月で出席しやすい15～16時に職員会議を開催し、利用者状況の共有、イベント相談、事務連絡等を行っている。欠席者は議事録で内容を共有する。端午の節句、七夕、スイカ割り、ミニクリスマス会、お正月おせち、節分、と季節を感じる多数の行事内容は職員の提案を取り入れて実施している。今年度の会議は隔月開催だが、毎月開催を求める意見があり、次年度は毎月開催に戻すことを予定している。職員からの要望で、負担の大きい利用者1名の入浴介助について男性職員及び管理者が対応することに変更した。年2回実施の理事長による職員の個別面談は、職員が要望等を伝える機会にもなっている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力に応じた給与体制と有給休暇や週休2日維持。 職員間で係を持ち現場に反映している	管理者は、各職員の日頃のケア状況や年2回の個別面談を踏まえて法人共有の「評価表」をつけ、理事長がそれを参考に給与に反映させている。介護福祉士及び社会福祉士取得者には祝い金及び資格手当がある。職員はスタッフルームを休憩室として利用できる。職員のストレス回避のため、管理者は、対応に負担が大きい利用者の担当を意識的にローテーションさせている他、職員が相談しやすいベテラン職員から得る情報を受けて必要に応じフォローしている。	

13	10	<p>○職員を育てる取組み          代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内でオンライン研修システムに加入し、初心者からベテラン、中堅など職員のスキルにあった研修の振り分けを行っている。</p>	<p>管理者は、法人が契約したオンライン研修メニューから必要な研修動画を選択し、月1回全職員が各自で視聴している。視聴後に確認テストと感想・意見の提出があり、完了すると研修受講として30分の時間給が支給される。実践者研修、リーダー研修及び管理者研修は法人が費用負担し、業務扱いで対応している。新人については、オンライン研修の他、担当職員をつけてOJTを実施している。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上          代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>コロナの為、自粛しているが勉強会などのお知らせには目を通している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴や生活リハビリの見守り等でコミュニケーションを取り対応		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学来訪時より相談対応に応じ利用者情報を確認し入居対応またデイサービスを利用して頂き利用者同士の関係も築き、職員との信頼関係を取りながら安心して入居対応をする		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の希望でセカンドオプション利用も進めている。訪問マッサージ、訪問入浴など必要に応じて提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各職員は居室（入居者担当）担当を決めて利用者に関わっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用者状況を居室担当者や管理者など気づいたことを文章にして送っている		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族や馴染みの関係が途切れないよう、可能な限り面会に来て頂くようお願いしている。親族の方が来て居室でいつもの違うものを食べるなど。	家族の他、親戚からの面会希望があり家族同意の下、対応した事例がある。孫からの電話取次と会話のフォローをしている。年末に家族や親戚との顔合わせに外出された利用者がある。習字、塗り絵、掃除、洗濯等の馴染みの物事の支援の他、幼稚園の先生だった方には電子ピアノを弾いてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置に留意し、利用者同士で参加したイベント写真を掲示している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方のご家族が何度か手紙やコロナが落ち着いたらお店に来てほしいなど連絡があった。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	初回はフェイスシートにて情報を整理、入居されてから情報は変わっていくため、職員会議で周知し、こんな事言っていた等、新たな意向も検討する。	入居時にフェイスシートによる情報で把握し、入居後は話している内容がいつもと違う時、亡くなった方を見送る場面でこの先どうしようという思いで話をされる時等に、職員が介護記録としてiPadに入力、申し送り事項として皆で確認し共有している。会話が困難な方は、行動や言動、生活ぶりから思いを把握し、職員会議で共有し、介護記録に残している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	私の基本情報シート（センター方式）に記入して頂き把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を引き継ぎや個人記録にて確認し把握に努めている		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で行われる意見交換やモニタリングにて現状や新しい課題について検討することを努めている	職員会議の内容を参考にケアマネが6か月に一度モニタリングを実施し、それを踏まえ、往診医師の報告書や日頃の家族の意向も踏まえて、管理者、ケアマネ、介護職員でカンファレンスを開催、介護計画書の課題に掲げた評価も行っており、介護計画見直しに繋げている。職員は、介護計画内容とその実施状況について、iPadで概ね確認できている。短期6か月、長期1年で見直しをする。	

27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>職員会議や日々の申し送りノート等の中で情報の共有に努めている。</p>		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者とのコミュニケーションでやりたいことなど聞き出し、その日の1日のプログラムを変更することもある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為、交流はできていないが、お散歩の際、地域の方とちょっとした挨拶できるようところがけている。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向にて訪問医を利用している。かかりつけ医の方もいれば協力医療機関の訪問医、または両方のかたもいる	月2回または1回、利用者は看護師同行の協力医の往診を受けている。緊急時は24時間対応となっている。利用者2名は別の医師の往診を受けている。週1回、訪問看護師が来所し、バイタルチェックや皮膚の状態確認を行って、利用者の状況報告書作成し、協力医に繋げている。外部受診は家族同行が基本だが、状況により事業所が対応する場合もある。外部受診結果は、職員が聞き取り、申し送りノートに記録している。歯科医師の訪問が週1回あり、希望者が治療と口腔ケアを受けている。訪問マッサージを受けている利用者が2名いる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護を施設で利用している。施設と看護師との連絡ノートもある。心配なことがあれば24時間連絡可能、病院とも連携を凶っている。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療機関、家族等と連携し早期退院、早期受け入れができるよう努める</p>		
----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行い、事前に意向確認をしている。訪問医や看護師等と連携をとり必要なケアの実施を努めている	入居時に対応指針及び「ターミナル（終末期）ケアおよび看取りに関する指針」を説明して同意署名をもらい、毎年「終末期の看取り等について(事前確認書)」で意向確認している。終末期に近づき医師が説明必要と判断すると、家族が病院に出向いて説明を受け、事業所での看取りを希望される場合は改めて管理者が家族にできないこと等説明したうえで看取り介護対応となる。今年度の看取り実績はないが、事業所としての看取り経験は多数あり、利用者も含めて一緒にお別れし、看取り後に利用者も交えて振り返りの時間を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の連絡体制を作成している、応急処置や手当の訓練は行っていない。看護師や訪問医の指示で行えることは対応していく		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	初期消火や避難訓練、通報訓練の実施。また近隣に住んでいる入居者の家族等から協力を得る連絡網の作成	今年度は利用者も一緒に昼間想定の方災2回、夜間想定の方災1回の計3回、避難訓練を実施した。近隣の方の参加はない。事業所は地域の防災訓練に参加していない。利用者と職員3日分の備蓄品を準備し、備蓄リストで管理している。ヘルメットやカセットコンロ、懐中電灯等も備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何かに失敗してもその方の気持ちが落ちない言葉かけやフォローなどすることを努めている	呼称は名字にさん付けで対応している。トイレ誘導やフロアで利用者の話をする際には、周囲に聞こえないよう声の音量に注意している。個人情報を含む書類等は、事務所の施錠できる戸棚で管理し、スタッフルームに置いてある会議録は持ち出し禁止としている。パソコンは管理者とケアマネジャーのみで限定使用し、パスワード管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コーヒーや紅茶、ココアなど、飲みたいものや砂糖やミルクの量はご自身で決めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間に間に合わなくてもその方のペースで起きて頂く 話題の中で何に興味があるか探りレクや話題の提供に努めている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品は居室にて管理して頂き、お化粧をされる方は自由にできるよう努めている			

40	18	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事形態や好き嫌い、アレルギーなど他の物にて対応 食事前のテーブル拭きなど準備は手伝っていただき、下膳はできるだけご本人で行っている。</p>	<p>食材業者から3食1週間分の食材が届き、昼食及び夕食は調理専門職員が、朝食は夜勤担当職員が作っている。刻みやミキサー食にも対応している。利用者は、食事前後のテーブル拭きや下膳をしている。毎月実施の誕生会・お楽しみ会の際は食材業者の発注を止めて、事業所が赤飯を用意する他、利用者の希望を受けて刺身、寿司等を提供している。利用者の希望を確認して誕生日のケーキも購入し皆で食べている。調理専門職員の休暇には、外食産業のお弁当を取ることもある。行事食として、おせちを発注したり、端午の節句には柏餅を提供した。夏には、スイカを購入して利用者がスイカ割りして楽しんだ後、皆で食べるイベントを実施した。</p>	
----	----	--	--	--	--



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に水分量や食事量、排せつ記録などを記入する		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや夕食後の入れ歯洗浄の実施 また週1日歯科往診がきて、入居者の口腔内をケアし状況を共有している		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレに行った際はチェック表に印をつけ、排せつ状況を共有し、必要に応じて声掛けをしている。	排泄チェック表で利用者の排泄状況やパターンを把握し、定時誘導や利用者の様子を見て声掛けしてトイレでの排泄を支援している。常時おむつ使用の方は1名のみ。夜間は睡眠優先だが、夜間のみおむつやリハビリパンツに変更する方はおらず、概ね現状維持できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物や運動を行い留意している また訪問医とも連携し相談できる体制に努めている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	温度や入浴時間を皆さんそれぞれ好みに合わせている 拒否のある際は時間を置いて再度声掛けまたは曜日変更にて対応している	原則、入浴は、週2回で、曜日と時間は決まっているが、希望があれば、週3回など、回数や曜日・時間の変更にも対応している。車いすの方1名はリフト浴で対応している。お湯はかけ流しで、湯温はその方の希望に合わせて調整している。ゆず湯や菖蒲湯、寒い時期の入浴剤など季節に応じて楽しんでいる。ヒートショック対策として、脱衣所にエアコンを設置している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良や傾眠時は休息して頂いてる、お昼寝される方もいるのでその都度対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容の確認と変更時の周知する(引継ぎノート等) 服薬の際は職員2人にて二重のチェックを行う		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生会ではケーキなど嗜好品とお祝いし、好きなテレビや音楽を観たり聴いたりする機会をもっている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や買い物に出かけている ボランティアさんと共に公園の清掃、お花見、外食など支援している	週2~3回、15~20分程度散歩をしている利用者もいる。職員と一緒に近隣のパン屋に朝食用のパンを買いに行くこともある。散歩を好まない方は、南向きの居室で日光浴を楽しんでいる。外出機会減少を補うため、毎朝食後に利用者全員でラジオ体操を行い、中には立って身体を動かす方もいる。他にも利用者は、10時のお茶の時間前後や15時半から16時半の間にユーチューブやDVDの体操動画に合わせて身体を動かしている。昼食前に口腔体操している。また職員は利用者に声出すことを促す等、ADL低下防止に努めている。	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>コロナの為、外出してのやりとりはできていないが、計算問題でお金の計算などプリントは使っている。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分からかける事はないが稀に親族からかかってくるときに電話の取次ぎはおこなっている		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花を飾り、食事席からソファに移り好きな場所で穏やかに過ごしていただいている	リビングは天井が高く、天窓もあり、明るく開放感がある。エアコン、床暖房、空気清浄機、加湿器で温度調節と湿度管理を行っている。天窓を開ける他、各食事前に5分程窓を開けて換気に努めている。利用者は職員と一緒にモップ掛けを行い、職員は定期的に共用部の消毒もしている。年間通じて、貰ったり購入したりした生花が飾られており、季節感を味わうことができる。植木職人をしていただいていた利用者に、日頃から傷んだ葉等を取り除いて貰っている。壁には季節感あるイベントの際に作った作品（現在は鬼の面）を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由な席で過ごしたい方や固定の席で過ごしたい方などそれぞれ思い思いの所で過ごして頂いている		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好きなカーテンなど自由に持ってきていただいている。居室内にてお好きなものも家族が持ってきて召し上がっている	全室ロフトつきのため、天井が高く開放感がある。床暖房、エアコン、クローゼット、タンス、照明、電動ベッドが備え付けられている。利用者は、思い思いに、時計やぬいぐるみ、テレビ、仏壇、水墨画、家族や自身が若い頃の写真等を持ち込んで居心地よい空間を作っている。	

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリ（各居室の掃除、洗濯物たたみと収納、モップ掛け掃除機かけ、洗濯物干しなど）の見守り、声掛けなど支援		
----	--	---	---	--	--

目標達成計画

事業所名 市が尾ポポロ  
 作成日 2023年 5月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	コロナ禍における運営推進会議の意見交換	運営推進会議における意見減少における改善策	入居しているご家族にも、活動報告書を送付し家族からの幅広い意見も取り入れる	2023年5月～2024年4月末
2	5	身体拘束をしないケアの実践	3か月に1度身体拘束適正化委員会の開催を安定して行う	管理者・ケアマネジャー・常勤職のみだけでなく、非常勤職員も参加し幅広い意見の取り組み、安定して委員会の実施を行う。	2023年5月～2024年4月末
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。